

July 15, 2021

【前日の為替概況】パウエルFRB議長証言でドル下落、対円109.94円、対ユーロ1.1839ドル

14日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに反落。終値は109.97円と前営業日NY終値(110.63円)と比べて66銭程度のドル安水準。6月米卸売物価指数(PPI)は消費者物価指数(CPI)に続いて予想を上回る強い結果となったが、パウエルFRB議長の議会証言に先立ち公表された証言原稿が「早期のテーパリング期待を高める内容ではなかった」と受け止められると、米長期金利の低下とともにドル売りが進行し109.94円まで下落した。米10年債利回りは一時1.34%台まで低下した。パウエルFRB議長は米下院金融サービス委員会での証言で「金融緩和政策を変更する前には景気回復が一段と進む必要がある」「回復の道のりは長い」と述べ、金融引き締めには慎重な姿勢を示した。議員との質疑応答では「FRBは高インフレの状況を非常に注意深く監視」「テーパリングについては今後数週間で再度協議する予定」「物価上昇で予想が大きく崩れた場合、FRBは金融政策を変更する」などと語った。

ユーロドルは3日ぶりに反発。終値は1.1837ドルと前営業日NY終値(1.1776ドル)と比べて0.0061ドル程度のユーロ高水準。パウエルFRB議長の議会証言で「物価上昇は一時的」との認識が改めて示され、金融引き締めには慎重な姿勢が表明されると、米金利の低下とともに1.1839ドルまで上昇した。

FRBが公表した米地区連銀経済報告(ページブック)では「米経済活動は5月下旬から7月上旬にかけてさらに強まり、穏やかなし力強い成長を示した」との認識が示され、前回の「穏やかに拡大し、拡大ペースが幾分加速している」から引き上げられたが、相場の反応は限られた。

ユーロ円は小幅続落。終値は130.16円と前営業日NY終値(130.29円)と比べて13銭程度のユーロ安水準。ドル円の下落につれた売りで130.02円まで下落した。

カナダドル円は頭が重かった。カナダ銀行(BOC)は、市場予想通り政策金利を0.25%のまま据え置くことを決めたと発表した。債券買い入れプログラムの規模を従来の週30億カナダドルから週20億カナダドルに減額したことが分かると、当初はカナダドル買いで反応し、88.57円まで上昇した。市場では「利上げのタイミングに関するシグナルのような、もっとタカ派的な内容を期待していた」との声が聞かれ、失望売りなどが出たほか、WTI原油先物価格が3%超下落したことを受けて、産油国通貨とされるカナダドルに売りが出て87.84円と日通し安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】中国の4-6月期国内総生産(GDP)のネガティブサプライズに要警戒か

本日の東京外国為替市場のドル円は、パウエルFRB議長のハト派証言を受けて上値が重い展開が予想される中、中国の4-6月期国内総生産(GDP)のネガティブサプライズによるリスク回避の円買いの可能性に警戒する展開が予想される。

10時30分に発表される6月豪雇用統計の予想は失業率が5.0%、新規雇用者数が+3万人と見込まれている。雇用情勢が改善していた場合、昨日のNZ準備銀行(RBNZ)やカナダ銀行(BOC)のような金融緩和策の終了への思惑が高まることで、要注目か。

11時に発表される中国の4-6月期の国内総生産(GDP)は前年比+8.1%と予想されている。1-3月期GDP成長率は前年比+18.3%の高い伸び率を記録したが、昨年1-3月期成長率が新型コロナウイルスの感染拡大によりマイナス成長を記録した反動によるものだった。4-6月期は、反動要因がなくなったこと、鉱工業生産は4月が前年比+9.8%、5月が+8.8%と1-3月期の前年同期比+24.5%を大きく下回っていることで、+8.1%程度への低下が見込まれている。市場では、9日に中国人民銀行が預金準備率(RRR)を0.5%引き下げたことで、中国の景況感が相当悪化しているのではないかと、との警戒感が高まっており、ネガティブサプライズに要警戒となる。

パウエルFRB議長は議会証言で、米経済の回復について、金融当局による大規模な資産購入の縮小を開始できるだけの『一段と顕著な進展』はまだ見せていないと指摘し、インフレ率については、向こう数カ月高い水準が続いた後、鈍化する可能性が高いとの認識を示した。パウエルFRB議長のハト派発言を受けて、米10年債利回りは前日の1.42%台から1.34%台まで低下し、ドルも全面安の展開となっている。

本日のドル円のオーダー状況は、110.05円の本日のNYカットオプションを軸にして、上値には、110.50円から111.10円にかけて断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、109.80円に本日のNYカットオプション、109.60-80円に断続的にドル買いオーダー、109.50円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 日銀金融政策決定会合（1日目）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 13:30 ◇ 5月第三次産業活動指数（予想：前月比▲0.9%）

<海外>

- 未定 ◎ 韓國中銀、政策金利発表（予想：0.50%で据え置き）
- 10:30 ◎ 6月豪雇用統計（予想：失業率5.0%／新規雇用者数3.00万人）
- 11:00 ☆ 4-6月期中国国内総生産（GDP、予想：前期比年率1.2%／前年同期比8.1%）
- 11:00 ◎ 6月中国鉱工業生産（予想：前年比7.8%）
- 11:00 ◎ 6月中国小売売上高（予想：前年比11.0%）
- 15:00 ◎ 6月英雇用統計（失業率／失業保険申請件数推移）
- 15:00 ◎ 3-5月英失業率（ILO方式、予想：4.7%）
- 19:00 ◎ サンダース英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:30 ◎ 7月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：18.0）
- 21:30 ◎ 7月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数（予想：28.0）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：36.0万件／331.3万人）
- 21:30 ◇ 6月米輸入物価指数（予想：前月比1.2%）
- 22:15 ◎ 6月米鉱工業生産指数（予想：前月比0.6%）
 - ◇ 設備稼働率（予想：75.6%）
- 22:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、米上院銀行委員会で金融政策や経済情勢に関する半期に一度の証言
- 24:00 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 米独首脳会談（ワシントン）
- トルコ（民主化と国民統一の日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14 日 11:04 ニュージーランド準備銀行(RBNZ)声明
「金融政策の刺激レベルを引き下げることで合意」
「大規模資産買い入れプログラムを 23 日までに停止」
「継続的な金融刺激策がなければ、インフレと雇用は中期的に目標を下回る可能性が高いと委員会は認識」
「責務を果たせないリスクを最小限に抑えるために金融刺激策のレベルを引き下げることで合意」
「持続的なインフレ圧力が時間とともに高まると予想」
「中期的なインフレへの不確実性は残っている」
「経済は引き続き堅調であることを示している」
「経済活動は新型コロナ以前のレベルを上回っている」
「第 2 四半期と第 3 四半期のインフレが一時的に急上昇すると予想」

14 日 16:56 中国外務省
※米・国務長官が南シナ海における中国の領有権主張を否定したことについて
「中国は米国の誤った立場に強く反対」

14 日 17:37 ドイツ経済省
「産業部門全体の見通しは引き続き良好」
「第 2 四半期末に独経済の回復が本格化する見通し」

14 日 19:12 カンリフ・イングランド銀行(BOE)副総裁
「インフレ率の上昇が行動を起こすべき持続的なものであるかを見極める必要」
「金利が下限に近い状態で経済を刺激することはより難しい」
「前例のない状況でインフレ見通しを評価することは困難」

14 日 20:08 トルコ中銀声明
「4 月インフレレポートの予測に沿った大幅な低下が達成されるまで、現在の引き締めの金融政策スタンスを断固として維持する」
「価格の安定性の主要な目的を追求して、利用可能なすべての手段を使用し続ける」
「強力なデysinフレ効果を維持するために、政策金利は引き続きインフレを上回る水準で決定される」
「第 2 四半期には、コロナ規制や金融情勢の逼迫により内需が若干減速したが外需は引き続き堅調」
「国内でのワクチン接種の促進により、パンデミックの影響を受けたサービス業や観光業の回復が促進」
「経済活動の構成がよりバランスのとれたものになって

いる」
「輸入価格や一部の供給制約、制限緩和、高水準のインフレ期待などがインフレ見通しのリスク」

14 日 20:33 石油輸出国機構(OPEC)筋
「サウジアラビアとアラブ首長国連邦(UAE)は原油生産の妥協案に合意した」
「次回」の OPEC プラス会合の日程は決定せず」
「サウジと UAE の妥協案により、OPEC プラス協定は 2022 年末まで延長」

14 日 21:35 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「FOMC は今後の数会合で債券購入の議論を継続」
「一段の顕著な進展には程遠い」
「インフレ率が大幅かつ持続的に目標を上振れする兆候があれば適切に調整する」
「インフレ率の上昇は供給制限の解消につれて部分的に反転する見込み」
「量的緩和の変更を決定する際には前もって通知する」
「雇用の回復はまだ道半ば」
「住宅価格は高騰している」
「住宅価格の上昇は無責任な貸し出しによるものではない」
「より多くの住宅供給は住宅価格の上昇を緩和するだろう」
「入手したインフレデータは予想よりも高かった」
「FRB は高インフレの状況を非常に注意深く監視」
「テーパリングについては今後数週間で再度協議する予定」
「物価上昇で予想が大きく崩れた場合、FRB は金融政策を変更する」
「大規模緩和策は引き続き適切」
「経済は最大雇用とはほど遠い」
「テーパリングへ向けたテストは適切」

14 日 23:04 カナダ銀行(BOC、カナダ中央銀行)声明
「毎週の国債の純買い入れ目標を 20 億カナダドルとし、従来の 30 億カナダドルから縮小することを決定」
「この調整は、回復に向けた継続的な進展と、カナダの経済見通しの強さに対する信頼の高まりを反映」
「理事会は回復には引き続き大規模金融政策が必要であると判断」
「2%インフレ目標の持続的達成のため政策金利を下限で維持」

「現時点の予測では、政策金利維持は 2022 年後半まで継続」

「量的緩和プログラムは引き続きこのコミットメントを強化し、イールドカーブ全体で低金利を維持」

「債券購入ペースについての決定は回復の強さと理事会の継続的な評価によって導かれる」

「回復を支援しインフレ目標を達成するために、適切な金融刺激策を維持」

「世界経済は新型コロナウイルスのパンデミックから力強く回復しており、特に先進国ではワクチン接種が継続的に進んでいる」

「回復は依然として非常に不均一であり、ウイルスの経過に依存したまま」

「新型コロナ変異体の蔓延は、特にワクチン接種率が低い地域にとって、さらに懸念されている」

「世界的な財政状態は依然として非常に緩和的」

「需要の高まりが原油価格の上昇を支えている一方、非エネルギー商品価格は引き続き上昇」

「カナダでは、新型コロナの第 3 波が第 2 四半期の成長を遅らせた」

「2021 年の GDP 成長率を 4 月の予想よりも少し縮小し約 6%と予想。22 年予測を 4.5%に上方修正し、23 年には 3.25%の成長を予測」

「雇用は再び回復し始めており、経済が再開するにつれて、労働市場の最も打撃を受けたセグメントが力強い上昇を記録すると予想」

「5 月 CPI インフレ率は 3.6%。これは、基準年の影響やガソリン価格の上昇などの一時的な要因と、経済の再開に伴うパンデミック関連のボトルネックに後押しされている」

15 日 00:15 マックレム・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「経済が見通しに沿って進展すれば時間の経過とともに量的緩和は必要なくなる」

「量的緩和プログラムの一段の調整は段階的なものに」

「カナダドルは米ドルに対して 4 月の水準に近いが、より幅広い通貨バスケットに対してわずかに上昇」

「消費は引き続き回復を牽引すると予想」

「供給のボトルネックが価格の急激な変動を引き起こし、インフレを一時的に押し上げている」

「インフレを押し上げる要因は一時的なものと予想」

「インフレ率は 2022 年に 2%に戻ると予測」

「テーパリングはカナダ経済の見通しの強さに対する信頼の高まりを反映」

15 日 02:20 ラムスデン・イングランド銀行(英中銀、BOE)副総裁

「英経済は今四半期に新型コロナ以前の水準を回復する可能性」

15 日 03:12 米地区連銀経済報告(ベージュブック)

「米経済活動は 5 月下旬から 7 月上旬にかけてさらに強まり、穏やかなし力強い成長を示した」

「需要の見通しはさらに改善したが、供給制約の緩和については不確実」

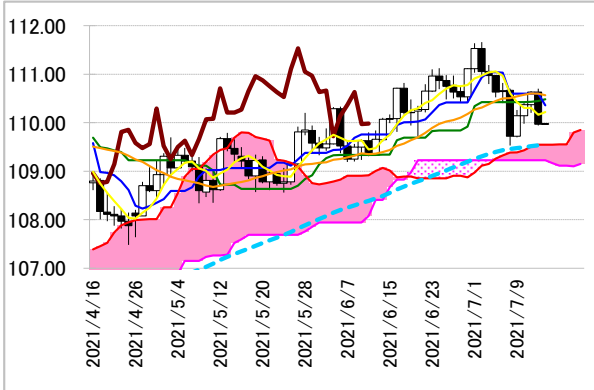
「賃金は平均して適度なペースで上昇した」

「貸出はほとんどの地区でわずかにまたは適度に増加した」

「一部の地区は価格圧力が一時的なものであるとみている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

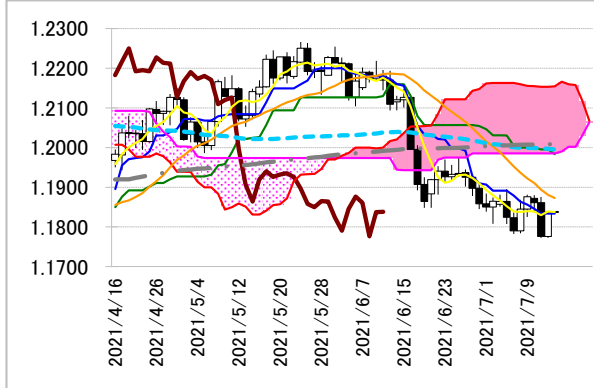


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、抱き線で反落して「下げ三法」となり、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	110.36(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	109.97
サポート1	109.55(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	109.23(日足一目均衡表・雲の下限)

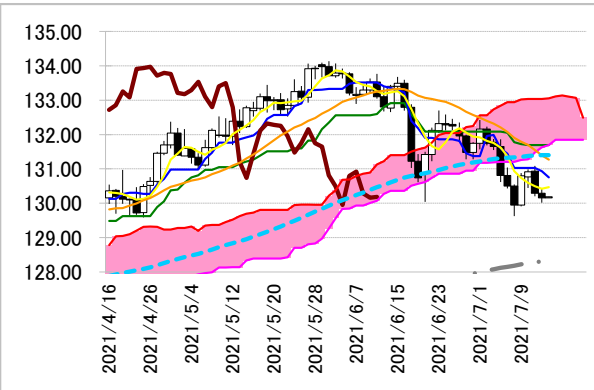


<ユーロドル＝7/14 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陰線で下落した後、孕み線で反発して転換線を上回って引けていることから続伸の可能性が示唆されている。

本日は、7月14日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1984(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1837
サポート1	1.1772(7/14 安値)

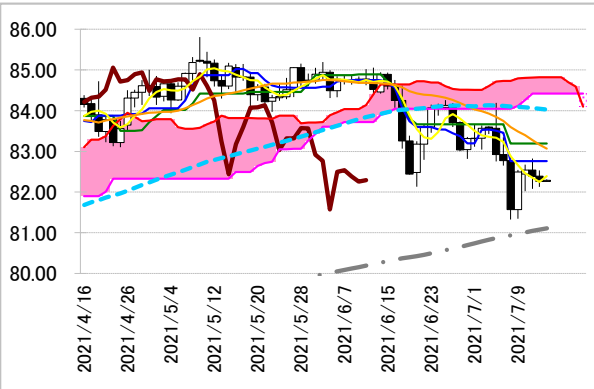


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯して。2手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	130.75(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	130.16
サポート1	129.63(7/8 安値)



<豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	82.76(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	82.26
サポート1	81.32(7/8 安値)

